



Lead【ニュース】

■ 節分の豆まきをしました！ ■ 2月2日(金)

今年も石井ゼミの『あそび隊』協力の下、節分の豆まきを行いました。当日は雪が降り、寒い日になりましたが、寒さに強い【アレ(鬼)】はやって来ました。

学生による節分の絵本を読み語りした後に、みんなで鬼のパンツを踊っていると、どこからか不気味な太鼓の音が聞こえてきました。「鬼がきたんじゃない?!」と興味津々の子どもたち。赤鬼と青鬼の姿が見えると、泣きながら逃げる子、怖がらずに豆を投げる子・恐る恐る豆を投げようとする子とそれぞれで、その様子をお母さん方は後ろから笑顔で見守っていました。

とうとう豆にやられた赤鬼と青鬼は、みんなの前で鬼のパンツを披露したり、記念写真を撮ったりしました。子どもたちが落ち着いてきた頃、静かに退散していく鬼の後ろ姿を子どもたちはじっと見ていました。姿が見えなくなっても少しの間「もう戻って来ない?」と、大人に何度も確認している子もいました。豆まきの後は、みんなで豆を拾い、豆を食べられる子は歳の数の豆を食べました。



近年では近隣住民への配慮などから、節分の豆まき自体をやっていない家庭もあるようです。そういったことを把握した上で、たいむでは実際に子どもたちが体験する機会を設けています。たいむの豆まきは、小袋に入っている豆ではなく、ばらの豆を升に入れて行っています。節分本来のやり方に近づけることで、大人自身も節分の意味を知るきっかけにもなっています。鬼の登場についても、実際に自分の目で見て、本物の福豆を投げるということが、一つの経験としてあっても良いのではと考えています。「鬼は外、福は内」と言いますが、目では見えない者(鬼)を子どもたちが目で見て体験をすることにより、厄払いという風習があることを学んでいけるとも考えていますので、少しでもこういった機会に日本の文化に触れられるようにしていけたらと思います。(本田)

## ■ たいむでの学び・自分の居場所の大切さを感じて ■

本田 美乃

千葉明德短期大学を卒業後は、地元の保育園にて9年間勤務し、その間に結婚などで自身の環境が大きく変わったことがきっかけとなり、2012年8月より育ちあいのひろばたいむのスタッフ(卒業生のリカレント教育)として母校に戻ってくることができました。

以前の職場にも子育て支援センターが隣接しており、同じ敷地内・園庭の共有をしても【保育】【子育て支援】と、保育士間で無意識のうちに区別していたのではないかと考えています。そのため、たいむに来たばかりの頃には、子育て支援についての知識の低さ・認識の薄さを感じ、「自分の役割とは何か」「親子とのかかわり方について」など、様々な面で不安が絶えませんでした。学内でのひろばということでも更に難しく思い、当時は現在よりも日々悩み、考え、反省を繰り返すなかで、統括の石井や教職員・当時のスタッフたちに相談し、時にはアドバイスをもらいながら少しずつスタッフとしての意識がもてるようになっていきました。

ここは保育園や幼稚園などとは異なり、毎日のように来室する親子が変わります。正に一期一会の言葉通りで、保護者の都合やスタッフ・校内の雰囲気なども大きく関係してくるため、保育士としての意識をもつばかりではいけないと痛感しました。同時に、私自身が実際に子育ての経験がないため、「子育ての大変さは共感できなくとも、保護者の気持ちにどのように寄り添い、向き合えばよいのか」「子どもとのかかわり方」「学生とのかかわり方」など、自分の視野や価値観の狭さも痛感し、視点を変え、その幅を広げていくことの大切さにも改めて気がつきました。そういったことから、外部研修や外部視察などの経験も大きく影響し、安定した代わり映えない日々を過ごすのではなく、『より良い環境にする・みんなが気持ちよく過ごせる居場所を創る』『子どもの成長について』など、スタッフとしてどう在ることが望ましいのかと、スタッフ間での話し合いや反省の内容にも変化が見られるようになってきました。今年度から保護者の声をより活かすために始まった運営会議も、たいむの日頃の様子であったり、保護者目線の提案であったりと、スタッフ自身の気づきや反省が深くなり、たいむ運営の見直しや見通しが立ちやすくなりました。まだまだ実行に移せていないことが多いのですが、自分たちの視点や意識を変え、試行錯誤していくことで見えてくるものが全く違い、たいむのねらいである【子ども・保護者・学生・地域・スタッフが共に育ち、育て合う場所】により近づいてきていると感じられるようになってきました。また、指示的・禁止事項は設けなくとも、「みんな我が子」「お互いさま」という気持ちをみんなで共有することで、子育て支援という枠に限定されていない空間になっていると思っています。

その他の学びとして、保育の専門的なことはもちろんのこと、四季の行事の意味や由来をきちんと知ることや実際に体験・経験して大人も学ぶことの大切さがあります。保育士時代は、四季折々の行事(七夕など)は、年間行事の一つであり、子どもが楽しむものという感覚で終わっていたように思います。楽しい行事や時間で終わらせず、その季節に応じた生活に潤いのあるものを取り入れることなど、『しっかりとした意図をもつこと』『大人の楽しむ姿を子どもたちが観ること』で自然に行事への興味や関心、意欲などがもてるようになるということです。子どもは大人の背中を見て育つというように、行事を通して日本の文化に触れることや生きる力を育てることに繋がっていると思います。また、自分の不得意な分野である環境構成(物的・人的環境)の大切さを感じ、たいむの空間にも共通するその重要性も学びました。

人と人とのコミュニケーションが求められる場面が多いため、現実問題としてその対応に難しさを感じることもありますが、様々な場面に必ずしもスタッフが登場しなくて良いことなど、保育とは異なるかかわり方にも意味があると感じています。例えば、たいむでは、子どもたちの近くにいる大人が温かく見守り、時には子どもたちに善悪を伝えていくことで、みんなが子育てをしています。日常の当たり前になっているこの雰囲気や空間も、みんなが創るひろばの良さであると思っています。

学生とのかかわりでは、自分の学生時代・保育者になりたての頃と重ねてきました。日々保育者としての意識をもって

成長していく学生たちの姿を見ていて、仕事(保育者として)に慣れてしまうことが一番怖いと感じました。学生と同じ目線で話ができるようにしたり、身近な大人として話をしたりすることで、信頼関係やたいむに来室しやすいように配慮していくうちに、スタッフだけではなく、親子とのかかわりもたくさん生まれました。そして、若い世代を育成する側として、自分たちには何が求められるのか・注意やアドバイスをするだけが先輩ではないという気づきもあり、子どもと同様、見守る時間も必要になると思いました。

私自身も夫の転勤による引越して生活環境ががらりと変わり、孤独を感じる日があったことを覚えています。自分の生まれ育った場所から離れて子育てをしている方が多いこの場所では、頼れる人が身近に居ない不安と様々な悩みを抱えていると思います。そういう環境から、仲間や知人を作り、共に支え合え、みんなで子育てをしていける居場所の有難みや大切さがあることも学び、自身の生活環境や心情に重ね合わせられる場面も多々ありました。日々かかわる親子との交流や生活圏の情報をいただくなど、孤立しがちだった環境から、人とかかわることで自然に自分の居場所がもてることの有難みを実際に感じました。

たいむで出会う保護者の方々は、子育ての経験がない私に温かく接してくだると共に、たくさんのことを教えていただき、そしてスタッフとして必要としていただけたことにとっても感謝しています。スタッフとしてこれで良いのかと思案することもたくさんありましたが、その度にお母さん方からの言葉に励まされ元気をいただけてきました。お互いに認め・認められることで、存在の意義や喜びを得られること(自己肯定感)。みんなで互いに意見を出し合い、協力し合っていくことで、つながりがもてたこと。たくさんの方に支えていただき今日まで過ごせたことを嬉しく思い、感謝の気持ちでいっぱいです。この温かい場所で、保育者として・人としてステップアップさせていただき、更に自分の居場所と学び直しの期間をいただけたことは恵まれた時間でした。

これまでに、みなさんにはご迷惑やご心配をおかけしたことが多々あったことと思いますが、本当にありがとうございました。ここでの経験や学びを、新たな職場、自身の今後にしっかりと活かし、日々成長できるように努めていきます。

長い間スタッフとして関わってきた本田美乃ですが、3月31日をもって退職することになりました。

4月からは、夫の転勤した福岡に引越しをされるようです。残りわずかな期間ですが、あたたかく送り出したいと考えています。

◇ リズム室あそび ◇ 2月8日(木) 10:00-12:00

短期大学内のホールにて、巧技台などの大型遊具を出して遊んでいます。

今回は、ふれあいあそびの一つとして、ホールに置いてある毛布(和太鼓のカバー)をきれいにして使い、「魔法のじゅうたんごっこ」をしました。毛布が出てくると、何が始まるのだろう? と興味津々で見ている子どもたち。「さあ、この毛布にお乗りください!」と呼びかけると、ほとんどの子は怖がることなく、毛布の上に座りました。大人がゆっくり、あるいは少し速く毛布を引っ張ると、その動きに驚いたり、笑ったりととても楽しそうでした。床に落ちないように毛布をしっかりと握ることで、自分の身体を支え、左右に揺れる毛布の動きに合わせて、小さな身体でバランスを取ろうとする姿が微笑ましくもあり頼もしく感じました。



たくさん遊んだ後は、みんなで片付けをしています。大人の手も借りながら初めて3歳の子もたちが毛布をたたみ、自分たちで片付けていました。「子どもを待つよりも大人がやった方が早い」としつつ大人が先回りして片付けをしたり、何度も「片付けをするよ」と促したりすることがあるかと思いますが、このリズム室あそびでは「自分もやりたい!」と、どんなに小さな子どもでもお母さんと一緒に片付けをする光景が見られています。いつもとは違う場所や遊具などの環境の違いもあるかと思いますが、小さな経験をたくさん積み重ねていくことで、いろいろなことが身につく、それが個々の自信や意欲にも繋がってくると考えています。こういった機会に大人も一緒に遊びながら、温かく見守っていただけると嬉しいです。

\* 毛布を片付けに行く様子

◇ 2年生ありがとう! ◇ 2月9日(金) 12:30-13:15

運営委員のお母さん方が中心となり、2年生最後の授業日に学生たちを招待し、食事会を行いました。(お母さん企画となります)

当日の食事は、有志のお母さん方が各自持ち寄り、手作りの麻婆豆腐・カレー・サラダ・パスタ・デザートなどたくさんの料理がテーブルに並びました。ビュッフェスタイルだったので、「どれも美味しそう!」と料理を選ぶ学生たちも嬉しそうでした。『たいむでの楽しかった話』『就職について』など、お母さん方と談笑したり、子どもたちと遊んだり、とても賑やかな会となりました。

食後には、友だち同士で学生が食器を洗ったり、たいむの親子へのメッセージを書いたりするなど、学生たちにとってもとても有意義な時間になったようです。今回のこの食事会は、お母さん方の「お世話になった学生さんたちに感謝を伝えたい」という声から企画されました。こういった会は初めてのことで、みなさんで試行錯誤されたようですが、教職員も賑やかな様子を見に来て、「こういう機会を設けていただけるのは嬉しいです」とにこやかに話していました。



◇ おひな様を作りました！ ◇ 2月13日(火) - 2月28日(水)

今年もおひな製作を行いました。昨年とても好評だった、【手型・足型のおひな様】と【千代紙で折るおひな様】の二通りを用意しました。

手や足型を取って作るひな人形は成長の記録として残るシンプルな物ですが、なかなか手や足型を取る機会がないとの声が意外に多く、0歳から4歳のお母さん方に喜ばれました。子どもたちが選んだポスターカラーの色を筆で手と足に付けていきますが、初めての感触や体験に不安を感じて泣き出す子・くすぐったくて笑う子と子どもたちも様々で、近くにいる大人がみんなで誉めたり応援したりしながら、賑やかに手と足型を取っていきました。

幼稚園児もできるようにと千代紙も用意しましたが、幼稚園児ではなく3歳の子どもたちが折り紙に挑戦することが多かったように感じました。

のり・はさみをお母さんと一緒に使い、時には手を添えられながらもとても真剣に仕上げている子どもたちを見ていて、一年の成長をまじまじと感じ、お母さん方と子どもたちの日々の様子を話し合い、みんなで成長を喜び合う良い時間にもなったように思います。



\* 左上・右下 : 3歳



◇ 第11回 たいむを育てる会(運営委員会) 議事録 ◇ 2月22日(木)12:30~13:20

1. 3月の行事予定

- ・ひなまつりについて ➡ 由来や飾りの意味を伝えていく
- ・14日(水)、1年生有志による学生企画 ➡ 時間、内容未定

2. その他

- ・おつかれさま会について ➡ 内容等未定
- ・たいむ閉室期間について ➡ 3/19(月)~3/22(木) ※環境の整備や次年度準備のため
- ・H29年度終了 ➡ 3/26日(月)~3/30(金) ※通常開室

**次回は、3月上旬を予定** 4月・5月の行事予定など

\*たいむでは、本来、利用者と一緒に創る広場を目指しています。

今年度より、利用者の視点をさらに入れていきたいという想いと、広場の内容をもっと利用者に見えやすくするために、「たいむを育てる会(運営会議)」を開催しています。

(運営委員は、2月から募集をかけ、立候補してくださった6名の利用者の方です)

【スタッフより】

・昨年はカルピスとひなあられを用意し、子どもたちも喜んでいたので、今年も用意する。

## ■たいむを育てる会(運営委員会)に参加しませんか！■

次年度のたいむでは、利用者の方の意見をさらに反映すべく、より過ごしやすい場にするために、意見を出したり一緒に考えていただいたりするように、「たいむを育てる会(運営委員会)」を行いたいと考えています。

毎月1回、1時間半程度、ゆったりと肩ひじを張らずに、お茶を飲みながら、たいむの現在・未来について語りましょう。具体的には、その年度の事業の構想、利用者数、次月の予定や季節の行事などについて、ご意見をお聞きし、事業に反映したいと考えています。利用者目線で、闊達なご意見をお願いしたく、下記をご参照の上、是非、ご考慮、お申込みの程どうぞよろしくお願いいたします。

育ちあいのひろば たいむ 統括 石井章仁

### たいむを育てる会(運営委員会)に参加していただける方を募集します！

#### ◆育てる会(運営委員会)で検討する内容◆

- ・たいむの運営や内容について
- ・たいむの行事や企画について
- ・その他たいむに関するあらゆる事柄について

#### ◆日時◆

毎月、第4火曜日 10時半～12時を予定しています。(29年度は12時半～14時頃までが多かった)

#### ◆特典◆

- ① 年間パスポート(¥1800分)
- ② まんぷくカフェ無料券5回分
- ③ たいむカフェコーナー利用券(行事等でも使用可)など

#### ◆募集期間・応募方法◆

- ・定員5名程度(応募者超多数の場合、抽選となります)
- ・2018年3月1日～3月31日まで
- ・お申し込みは、たいむメールアドレスまでメールでお申し込みください。 [oyako@chibameitoku.ac.jp](mailto:oyako@chibameitoku.ac.jp)
- ・お問い合わせは…たいむスタッフまでお願いします！

## ■ スタッフよりお知らせ ■

2012年8月より、たいむのスタッフとしてお世話になりましたが、今年度をもちまして退職の運びとなりました。育ちあいのひろば たいむでは、保育の現場とは異なるたくさんの出会いや人とのつながりに有難みを実感し、私自身を成長させていただいた場です。支えてくださったみなさん、ありがとうございました。

また、どこかでお逢いできることを楽しみにしています。 本田 美乃

◆ ひなまつり ◆

ひなまつりにちなんだ話をします！ ぜひお気軽にご参加ください。  
ささやかなお土産も用意してお待ちしています。



【日 時】 3月2日(金) 11:00-11:15頃  
【場 所】 たいむ

◆ 学生と一緒にあそぼう！企画 ◆

1年生とたいむの企画です！

\*右の写真は前回の様子です

【日 時】 3月14日(水)

※ 時間・場所・活動内容については、改めてお知らせします。



◆ おつかれさま会 ◆

一年間、いろいろとおつかれ様でした！！  
今年のおつかれさま会は、まんぷく CAFEと一緒にいきます。



【日 時】 3月23日(金) 13:00-17:00

【場 所】 たいむ

【料 金】 大人:300円 子ども:100円(まんぷくCAFE代)

【持ち物】 飲み物

※各自必要なもの

◆ まんぷく CAFE ◆

今日は第4金曜日に行います！

【日 時】 3月23日(金) 13:00-17:00

【場 所】 たいむ・短期大学内サロン(調理室)



※食数の把握のため、おつかれさま会に参加される方は、前日までにたいむ受付にある名簿へ記名、または、まんぷくfacebookにて、予約をお願いいたします。

■ 閉室期間について ■

3月19日(月)～3月22日(木)まで、室内環境の整備や次年度準備を行うにあたり、お休をいただきます。

また、短期大学の入学式やその他都合により、たいむの開室時間に変更になる場合がありますので、事前に予定表の確認、スタッフにお問い合わせいただけますよう、ご協力の程よろしく願いいたします。

※3月26日(月)～3月30日(金)は通常開室。学食の営業は3月の予定表をご確認ください。